

6月9日(火曜日)「赦された幸い」

【新改訳 2017】

詩篇 32・1－11

「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、その靈に欺きのない人は。」(1、2節)

ここには、罪が赦されることがいかに幸いであるかがよく表されています。

この詩篇は、ダビデ王が、部下の一人であるウリヤの妻と不倫の罪を犯し、それを隠そうとした時、預言者ナタンに断罪され、ついに告白して赦しをいただいた後に歌ったものと思われます(1サムエル 11、12章参照)。3－5節は、その罪を隠していた時の良心の呵責と葛藤を描写したものでしょう。苦難のほどがわかります。

良心の呵責を隠したり、抑えたりすることは心身の病気をさえ起こします。私たちにとって、赦すことと赦されること(赦してもらうこと)は、本当に難しいことですが、本当に必要なことです。

今私たちは、御子キリストの贖罪によって神から赦されているのです。これこそ最高の祝福であることを覚えて、心から感謝しましょう。

～祈り～

イエスさま。聖なる御子でいらっしゃるあなたが、私のような罪人の身代わりとなってさばきを受けてくださり、それによって罪を赦し、覆ってくださったことを感謝します。

【学びのために】

イザヤ1・18、ローマ 4・1-8、1ヨハネ1・7-10、2・1、2など参照。

(参考区分) テーマは「悔い改めとゆるし」、1-2節 赦しの恵み、3-5節 罪の赦し、6-7節 聖徒を守られる神、8-9節 神からの勧め、10-11節 悪者と正しい者との違い。